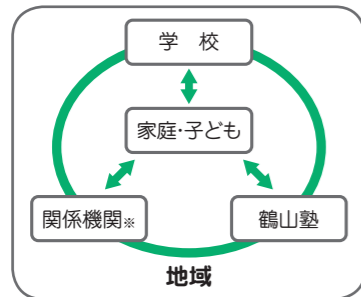


鶴山塾の活動内容

- 教育相談活動
  - 相談活動…相談員や特別相談員による電話や面談相談
  - 継続支援…子どもや保護者への継続的な面接相談、訪問支援、小・中学生の通塾支援
- 啓発活動
  - 講演会や研修会などの開催。機関紙の発行など
- 学校・各関係機関との連携
  - 学校との情報交換や関係機関との連絡調整

関係機関との連携イメージ図



※学校教育課、子育て相談室、健康増進課、児童相談所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、主任児童委員・民生委員、児童養護施設、医療など

**相談の状況**  
 鶴山塾では、悩みを持つ子どもや保護者からの相談を受け付け、面接相談へと繋がっています。相談内容は、不登校や学校・家庭生活などの相談が大半を占めています。特に、小・中学生に関する相談では、不登校に関するものが60%を超えています。不登校の相談の中には、子どもの友人関係や教師との関係、集団生活への苦手意識などの問題のほか、家庭でのDVや離婚などの問題や経済的な問題などが複雑に影響しているケースが増えてきています。

相談と連携

**関係機関との連携**  
 相談に訪れる保護者の中には、学校や病院、その他の相談機関から鶴山塾を紹介されて、相談に訪れるケースがあります。また、地域の人と一緒に訪れるケースもあります。相談を受けた後、継続した支援を行うために、学校や関係機関との情報交換や支援会議を開催しています。子どもに関わるそれぞれの機関が、その子どもに合った支援への共通理解を持ち、具体的な支援方法を検討実施することは大変重要だと思っています。



作業をするときまり木の皆さん

**市民ボランティア「とまり木」**  
 鶴山塾の運営には、行政や保護者、教育関係者だけではなく、塾の基本姿勢に賛同する鶴山塾ボランティア「とまり木」も参加しています。「とまり木」の皆さんは、子どもたちの食事作りや「ふれあい農園」での農園作業などを行っています。

ボランティアの協力

～30年を振り返って～

鶴山塾ボランティア「とまり木」代表 須江寛臣さん (八出)



30年という長い年月が経過していますが、つい最近のように思えます。昭和59年、当時の津山市長・永礼達造さんが、家庭や学校に居場所のない子どもたちを集めて支援をするという目的で鶴山塾を設置しました。そして、初代塾長を応援しようと市民の有志が集まり、ボランティア「とまり木」ができたのです。30年が経ち、現在の塾は開塾当初とは性格が異なっていますが、今の学校現場の要望にあった塾の在り方を望んでいます。そして、これからも塾の応援団として、「とまり木」を発展させたいと思っています。

また、会員それぞれの特技・趣味を生かした活動や、活動の場の提供、さらに、環境整備など、さまざまな形で支援を行っています。

地域の人と関わる子ども

また、地域の人・「とまり木」の皆さんと語り、ふれあうことで、子どもたちがマナーや人との距離感を身に付けたり、自分がどのように動けば良いか気付けるきっかけになっています。例えば、餅つきや味噌作り、お飾り作りなどの手作り体験は、子どもたちにとって、五感を使い、昔ながらの生活の知恵を知る貴重な時間になっています。

**ひとりでも悩まないで、気軽に相談してください**  
 学校や友だちのこと、家族のことで悩んでいませんか？先生や家の人に分かってほしいことを言えずにいませんか？子どもや家族のことで悩み、不安な時はありませんか？鶴山塾へ気軽に相談してください。一緒に考えていきます。



津山市教育相談センター「鶴山塾」  
 〒708-0022 津山市山下87  
 電話番号 22-2523  
 相談時間 午前9時～午後5時 月～金曜日

鶴山塾が目指すもの

鶴山塾が関わる小・中学生たちは、それぞれのペースで生きる力を身に付けています。そして、悩みながらも高校進学など、次の進路を選択していきます。しかし、中には、長期間、個別に対応をしないと次のステップに進めない子どももいます。

また、鶴山塾では、社会に出るための準備が必要な子どもたちへの支援が課題となっています。そのために、個々の子どもに合った関わりと、先を見越した切れ目のないサポート体制づくりが不可欠だと実感しています。また、学校や教育、医療、福祉などの関係機関がお互いの分野の専門性を生かした定期的、継続的な連携がますます大事になってきたと思います。

しかし、義務教育を終えた子どもにとって、相談ができ、具体的に関わりを持ってくれる機関がほとんど無いのが現状です。地域の応援も受けながら、支援のできる相談機関や子どもたちが集える居場所づくりが急務であると思っています。

鶴山塾が目指すものは、子どもたちが社会的に自立する力を育成することと、子どもたちの幸せです。その実現には、子どもを見守る大人同士が連携を取り、継続的な支援を行っていくことが、ますます大切ですね。



鶴山塾 塾長 土居勇人

わたしの娘は、中学校に入学してすぐ、学校に行けなくなり、1年生の冬から鶴山塾に通い始めました。娘は、人見知りな性格だったので、まず、担当の先生と一対一で過ごすことから始めました。そして、徐々に自分から積極的に行動できるように変わっていきました。

鶴山塾では、畑での野菜作りやキャンプ、味噌作りなどのさまざまな体験ができました。特に、お昼の食事作りは、将来の自分を考える良いきっかけとなり、食に携わる仕事をするのが本人の目標になりました。勉強は、中学校の先生のサポートや鶴山塾での学習のおかげで進めることができました。そして、自分なりの工夫や頑張りもあり、高校に入学することができました。



今は、目標に向かって頑張り、明るい高校生活が送れているようです。苦しかった時期にたくさんの人から支えられ、貴重な経験ができたことは、これからの人生にきっとプラスになると信じています。

(卒業生の保護者より)

わたしは、中学1年生の秋から、不登校になって、苦しいことや辛いことがあり、先が見えなくなって不安になってしまいました。でも、鶴山塾に通い始めて、いろいろな人に支えてもらいながら、乗り越えていくことができました。

鶴山塾で過ごした時間は、本当に楽しかったです。しかし、初めから楽しかったわけではありません。最初は、家から外へ出ることが嫌で、鶴山塾に毎日通えるようになるのも、時間が掛かりました。それでも、少しずつ通うことで、楽しくなっていました。自分のペースで勉強したり、同級生と遊んだりして、だんだん笑うことが増えました。

わたしは今、大学に通っています。学生生活の中では落ち込むこともあります。でも、そんな時は、塾のことを思い出して頑張っています。

わたしにとって、鶴山塾での時間は、辛いこともあったけれど、すべて今の自分にはなくてはならない大切なものです。



(鶴山塾の卒業生より)